

報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

学習基本調査・国際6都市調査 小学生の学習時間の二極分化が進む東京 「勉強が役に立つ」という意識が6都市中もっとも低いことも課題

ベネッセグループのシンクタンク「ベネッセ教育研究開発センター」では、2006年6月～2007年1月に、東アジア3都市（東京、ソウル、北京）、欧米3都市（ヘルシンキ・ロンドン・ワシントンDC）の10～11歳の児童（日本の小学5年生に相当）を対象に、学習に関する意識・実態調査（【学習基本調査・国際6都市調査】）を行いました。国内での調査は1990年以降、ほぼ5年おきに実施し、今回で4回目となります。また今回の調査では、国内にとどまらず5つの国の首都でも同じ内容の調査を行いました。

本調査の結果は、以下のようなものです。

- ① 学校外の学習時間は都市により異なるが、東アジア3都市は学習時間が長いのに対して、欧米3都市では学習時間が短く、かつ学校の宿題が中心である。東京は、「30分」「1時間」という短い層と「3時間30分以上」という長い層の二極に回答が分化しているのが特徴である。
- ② いずれの都市でも、小学生は勉強がさまざまなことに「役に立つ」と考えている。ただし、「役に立つ」と考えている割合は、ほとんどの項目で東京がもっとも低い。東京の小学生は、勉強が役に立つという意識が他の都市に比べ相対的に弱いことがわかる。
- ③ 現在の自分の成績についてたずねたところ、上位（7段階で「1」または「2」を選択した比率）は東京がもっとも少なく22.3%である。つづいて、ソウル29.9%、北京34.8%、ヘルシンキ40.3%、ロンドン43.2%、ワシントンDC54.9%となっており、東京は最も自己評価が低い。

今回の調査では、それぞれの都市に共通する点が明らかになると同時に、都市によって異なる傾向を示す項目があるなど、小学生の学習意識・実態について興味深い結果が表れました。東京の結果に示されているように、日本の小学生は、長い時間を学習に費やしているように見えますが、勉強する子としない子に分化しています。また、学習が役に立つという意識や成績の自己評価が低いのも課題です。他の都市の様子や取り組みを参考にしながら、学習意欲を喚起できるような支援を行うことが必要です。

■ 調査概要

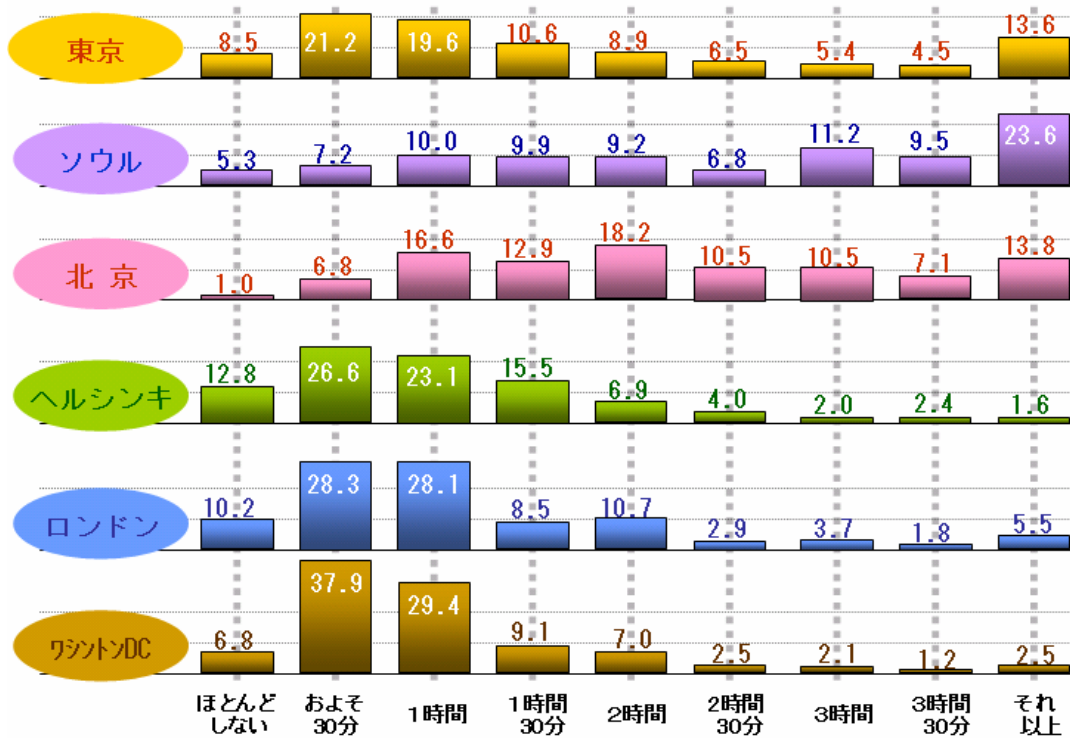
- 【調査テーマ】 小学生の学習に関する意識・実態（世界6都市における国際調査）
- 【調査時期】 2006年6月～2007年1月（各都市とも新学期開始から3～5か月後に実施）
- 【調査方法】 学校経由の質問紙による自記式調査 *ロンドンのみ学校経由のWebによる調査。
- 【調査対象】 10～11歳の児童（日本の小学5年生相当） 東京：1,105名 ソウル：1,300名 北京：1,195名
ヘルシンキ：526名 ロンドン：891名 ワシントンDC：955名（合計：5,972名）
- 【調査項目】 好きな教科／教科の理解度／家庭学習の時間・内容・様子／日常生活の中での「学習」／学習塾の利用／習い事／成績の自己評価／学習上の悩み・意欲・喜び／社会観・価値観／希望する進学段階／メディアの利用／家庭環境

■ 特徴的な調査結果

① 学校外の学習時間

図 1：平日の学習時間（速報版 p.14）

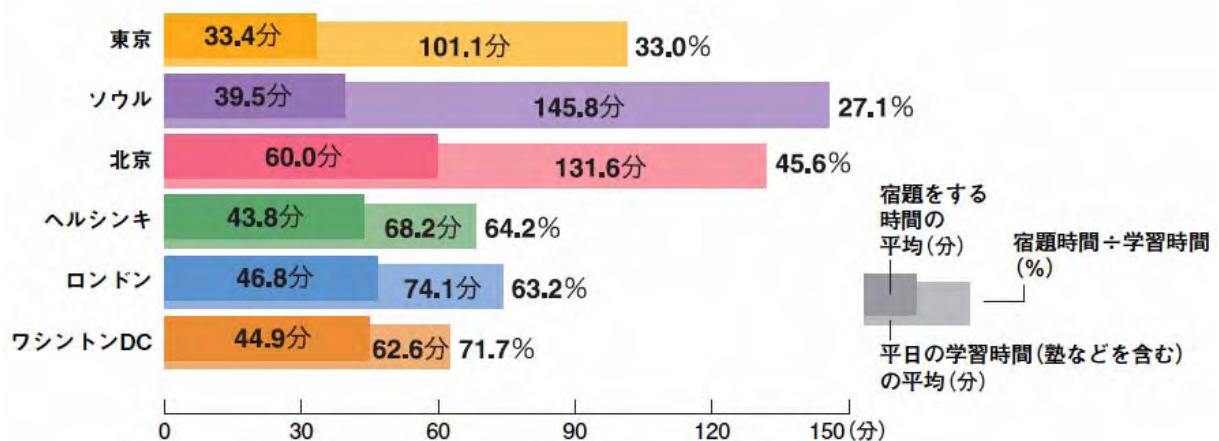
- ◎ 東京は学習時間が二極に分化している。
- ◎ ソウルは 4 人に 1 人が「3 時間 30 分以上」（注：「それ以上」）学習している。
- ◎ 北京は学習時間の分散が大きい。
- ◎ 欧米 3 都市（ヘルシンキ・ロンドン・ワシントン DC）は学習時間が短い。



* 学習塾での学習時間や家庭教師と学習する時間を含む。
* 「無回答・不明」を図から省略した。

図 2：平日の学習時間に占める宿題をする時間の比率（速報版 p.15）

- ◎ 東京とソウルは宿題以外の学習時間が長い。
- ◎ 北京は宿題も宿題以外の学習時間も長い。
- ◎ 欧米 3 都市は学校の宿題が中心で、宿題以外の学習時間が短い。

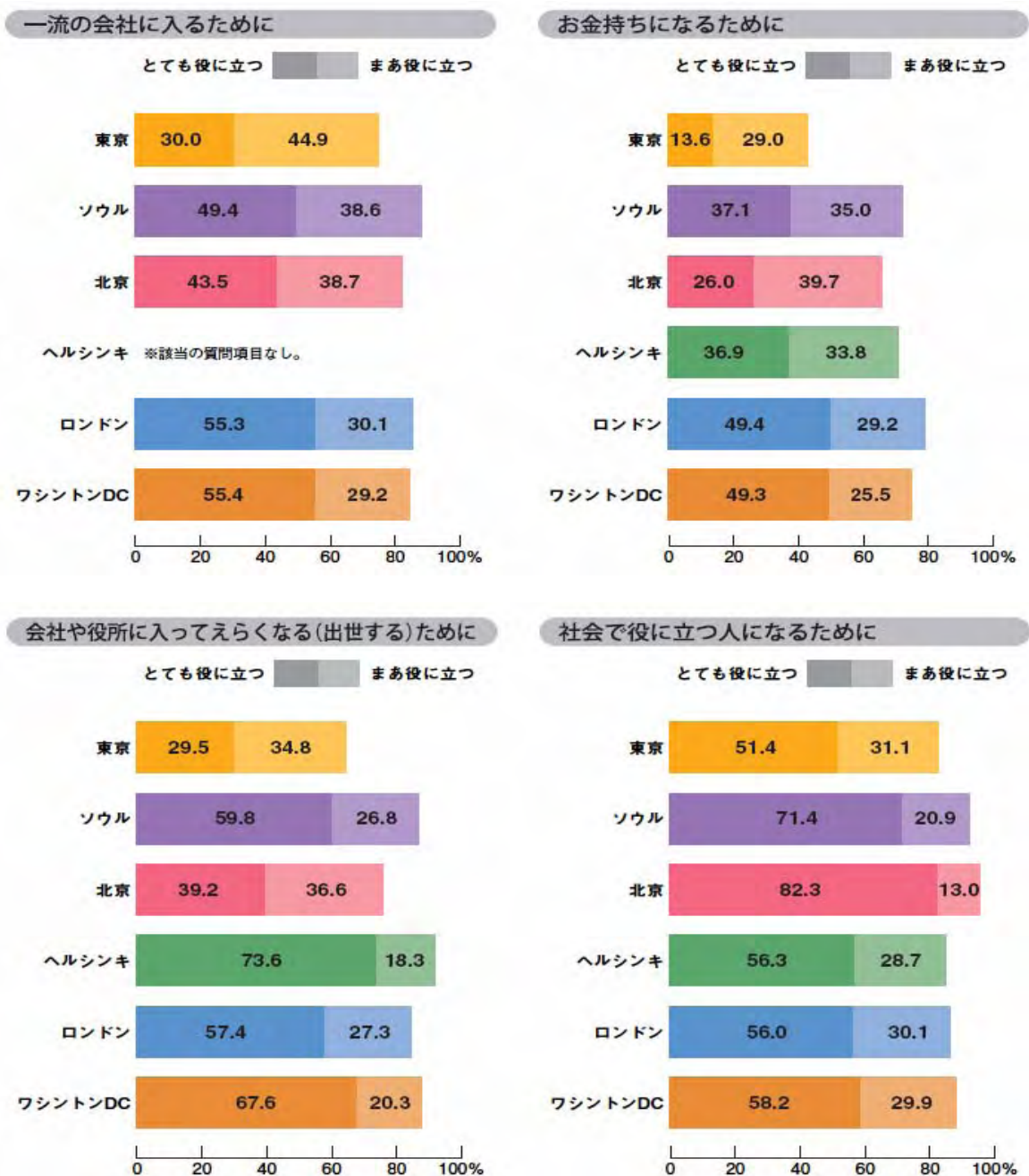


* 平日の学習時間の平均は「ほとんどしない」を 0 分、「3 時間 30 分」を 210 分、「それ以上」を 240 分のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。宿題をする時間の平均は「ほとんどしない」を 0 分、「2 時間」を 120 分、「それ以上」を 150 分のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

② 勉強の効用

図 3：勉強の効用（速報版 p.28）

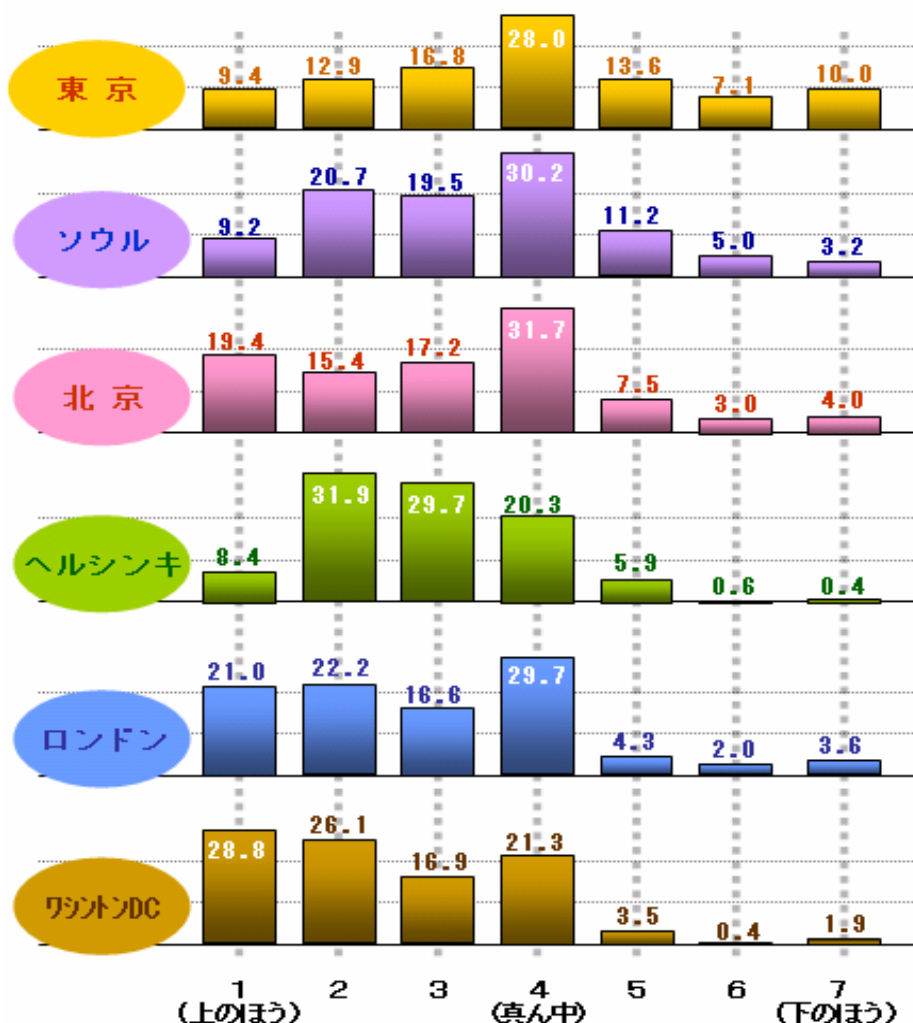
◎東京はほとんどの項目で「役に立つ」と回答する比率がもっとも低い。



③ 成績の自己評価

図4：成績の自己評価（速報版 p.24）

- ◎ 上位（7段階評価の「1」「2」）の割合は、東京がもっとも低い。
- ◎ 欧米3都市は自己評価が高い傾向にある。



*「無回答・不明」を図から省略した。

ご参考

< Benesse 教育研究開発センターの活動 / Benesse 教育情報サイトでの情報提供について >

- **Benesse教育研究開発センター** (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。
 - 8月29日より Web サイトがリニューアルオープンしました。
 - 「学習基本調査・国際6都市調査」の詳細はこちらのサイトをご覧ください。
- 「**Benesse教育情報サイト**」 (<http://benesse.jp/>)
ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR 部（坂本、西沢、中島、濱野）
TEL: 042-356-0657 FAX: 042-356-7301